

●産業支援センター活用のきっかけ

浅野：プラットおおむらでやった異業種交流会で初めて大村市産業支援センターという存在を知って、経営というものが初めてだったし、わからないものがわからない、っていう状態だったんでモヤモヤしながら経営をしていて、“何でもいいから来てください”っていう感じだったんで、何も目的はなかったけど(笑) わからないことがわからないんですけど、みたいな感じで遊びに行かせていただきました

宮本：ありがとうございます。確か最初にお越しいただいたときに、「ホームページを作り直しているんですけど、人が来ないんですよ・・・」っておっしゃられた話からだったと思います。ホームページを拝見しながら、どういうお店で、どんな雰囲気、コンセプトで、どういうワクワク感っていうか、来られた方たちに対しても全面に出てないかなみたいなお話をさせていただいた記憶があります。

浅野：そうですね、形にするってすごく難しいですね。写真1枚と文字を使って・・・

宮本：難しいですね。動きを出すっていうか、それこそ最初の想いの熱量を伝える、味を常に追求し続けて合格点もらえるまで頑張っている姿勢みたいなどころとか、あとは結構従業員の方々のことを思われていて、アルバイトさんも結構良いですよ。

浅野：始まりが求人載せるお金もなくて、結構高いじゃないですか。一回頑張って載せたけども応募件数0で、厳しいなって思っている中、友達に相談したら、友達の奥さんが手伝いに来てくれたり、友達が手伝いに来てくれたりっていうので、すごく友達に支えられました。僕の恥ずかしい、カッコ悪い部分もつまずいているところとか見てきてくれるので、すごく応援してくれて助けられています。冷凍ちゃんぽんを販売するにあたって、ネット通販しようってなって、商標を取った方がいいっていうアドバイスもいただいて、今年始まってから無事宮本先生立会いのもと、申請が終わりました。

MC：お仕事のお話もちろんそうですけど、いろんな方のお話も聞けて、ちょっとウキウキしてされていたんじゃないですか？

宮本：そうですね、事業承継の難しさ厳しさっていうのを改めて今回教えていただいたようにも思います。認知度がすごくあるものに対して引き継ぐっていうことは他から見るといいよねって言われるかもしれないけれど、守らないといけないもの、そこにはそれに応じた難しさがあり、そんなに簡単じゃない、よりハードルの高い厳しさがあるんだなっていうのは、今回改めて分かりました。芸能人ネタも含めて(笑)ほとんど個人的な興味でお話をお聞きしていいのかなって、途中でふと我に返りました(笑)

MC：でもちょっとこの番組も回を重ねている中で宮本センター長ってそんな人だったの？ちょっと思われた方もおられたんじゃないかなってそんな部分が垣間見られたんじゃないかなと(笑)

宮本：そうですね(笑)意外とミーハーだなと思われたかも(笑)意外とでもないかもしれないけど(笑)

MC：いつも利用される方と一対一でお話をされるんですか？

宮本：そうですね、事業に対するいろんなデリケートな部分とかそういったことのお話もお聞きするので、守秘義務は守らないといけない、こちらの方としても心してお話を伺っているということになります。

MC：今日番組にお越しにいただいている浅野様の話を聞いていて、センターにその相談したときって、こんな気軽な感じでお話を聞いていただけるのかな、お話ができるのかな、っていうふうにちょっと感じました。 どうですか？浅野さんはそれまでご存知なかったところに、飛び込んでご相談されたっておっしゃっていましたが、最初からどうですか？宮本センター長の・・・。

浅野：すごく話しやすかったです。「最近どうですか？」のノリからいろいろ世間話から入って行って、問題を見つけていくみたいな感じだったので、すごく話しやすいです。

宮本：ありがとうございます。

MC：お2人のやり取りがとても楽しくて、ついつい私も聞いてしまったんですけど、センター長の方からまたちょっとお話をお願いできますか？

宮本：新たに冷凍チャンポンのお話があったんです。展示会もそうですが、持ってくるのはいいけれど、アイデアと名前とか、オリジナリティの部分を守護せずみんなに公開することになるので、そのアイデアを簡単に持っていかれるパターンもあるんですね。海外に自分の作ったものを持って行って、そのまんま試作品が誰かのポケットに入り、次に行ったときにはそれが出来上がっていたみたいな、ということも実際にあるんですね。協和飯店の名前を、知財の J Plat Pat (ジェイ プラットパット) っていうのがあるんですけど、そこで調べてみたら、まだ誰も商標権を取ってないということがわかって、「おお～これは取るしかない」みたいな感じになりました。協和飯店には、芸能人の方もたくさんお越しになるし、もちろん地元の方も知らない方がいないぐらいのブランド力のあるお店なので、ここは抑えにくいかなということ、INPIT 知財総合支援窓口の方と連携して商標の出願を行いました。普通の会話をしながら、次こんなことを考えられたらとお話させていただいたりして、ご納得いただいたらそちらの方に進んでいく、っていう感じでご一緒させていただいています。

浅野：宮本さんと喋っていると「じゃあ次こうしようか」みたいなアイデアが普段の会話の中で生まれてくるので。

宮本：「次回はこれで行くよ」っていうのはもう決まっていますよね、実は(笑)

MC : さすがです。大体そういうご相談のお時間って1時間ぐらいですか？

宮本 : 1時間ぐらいでいいところに落ち着きますね、大抵は。ウワーって途中盛り上がって、じゃあこう行こうっていうところで。

MC :そこはプロですね、さすがです。いろんな専門機関の方に繋いでいただけるというのは大きいですね。代表の方って、孤独だってよく言うじゃないですか。企業の方のご相談ができる場所っていうことですね。

今回、浅野さんがラジオ出演を 快く「いいですよ」って手を挙げてくださった、これはやっぱりお相手が宮本センター長だったからですかね？(笑)

浅野 : もちろん(笑)事業承継するにあたって、補助金を活用させていただいたんですよ。補助金って言えば、みんなの税金から出ているわけで、僕はみんなに何らかの形で恩返しをしないとイケないっていう思いもずっとあるので、僕は聞かれたことには NG なしで全部答えています。僕と同じような境遇の人がいれば、その人の背中を良くも悪くも押してあげたいし、っていう思いもあって。

宮本 : 飲食を目指したいんです、事業承継がって言ったら、「協和飯店にまずは食べに行こう」と言います！

浅野 : そうですね(笑) チャンポンすすりながら(笑)

宮本 : 美味しいものを食べると、いいアイデアもたくさん浮かびそうですから、それもいいなって今思いましたね。